節目の年、日本の伝統文化と誇り ①

【不戦を固辞した日本】

広島に原爆が落とされたのは昭和二十年八月六日のこと。今年は被爆終戦七十周年の大きな節目の年。戦後生まれが総人口の八割に達した現代日本。**節目**というのは読んで字の如く、**節から芽が出る。新しいものがそこから生まれてくるという事だ。**終戦七十年の節目に私達現代日本人は、この大きな転換点に何を思い、そして何を為さなければいけないのか？個人個人が真剣に問わねばならないでしょう。誇りある日本人としての生き方の問い直し、一人一人が当事者意識を強く持ち、それを確認し合い、更にそれを発信していく使命を預かっているとも言える。

私は八月六日、広島において開催された平和祈念式典に参加し、その後行われた「二度と戦争を起こさない～核兵器廃絶をめざして～」をテーマにした『原爆投下七十年シンポジウム』に出席した。

会場には広島市長、各国駐日大使、衆参両議院の面々、有識者など錚々たる面々が顔を連ねた空間の中で、戦争と平和を考える上で有意義な時間を過ごした。当然のことながら、その会場に集まった誰一人として「戦争・紛争」など臨んではいなかった。誰しもが「平和な世の中」を訴え願っていた。だが、世界各地では紛争が絶えず、年々軍事力を増強する国もある。日本はどうだろう？『不殺生』を唱える宗教界はもとより、『**非核三原則**（核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず）』を代名詞に、**日本国憲法第九条**の戦争放棄の規定第一項には、「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」とある通り、事実、先の大戦以来この七十年間、日本で戦争が勃発する事も、巻き込まれることもなかった。日本は戦後の荒廃から目覚ましい勢いで立ち直り、最も成長した平和国家である。調べてみると、戦後七十年間戦争に関与しなかった国連加盟百九十三ヶ国のうち八ヶ国（日本、アイスランド、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、スイス、ブータン）しかなく、アジアでは日本とブータンだけである。世界に誇るべき歴史である。スイスを除くと、北欧諸国の国々ばかり。先の大戦後、戦争の原因になるものが北欧諸国に無かった事も要因の一つでしょう。

【戦争の原因】

●**米ソ対立の発火点という地政的な位置に無かったこと**…朝鮮戦争、ベトナム戦争、アフリカ、アフガンなどの米ソの代理戦争とは無縁の地政的な位置だった。

●**民族対立**…中東戦争、バルカン諸国など。

●**宗教対立**…中東戦争、印パ紛争。

●**経済的な貧困**…北欧諸国などはおしなべて豊かな国。

●**政体の未成熟**…民主主義が確立しており、独裁者のアンバランスな政治とは無縁であり、バランスの外交を行っている。

【日本という奇跡の国】

日本のようにこの七十年間戦争をせず、平和を享受してきた国は世界一九六ヶ国の中でも極めて少ない。平成二十三(二〇一一)年に米英軍による攻撃で始まったアフガン戦争では、ドイツは最大時五千人を派遣し、死者五十四人。中立国だったスウェーデンも最大時五百六人を派遣、死者五人、オーストラリアは派遣三人(死者なし)、フィンランドは派遣百八十一人（死者二人）、アイスランドは八人（死者なし）、スイスも密かに三十二人を出し、軽傷者二人との報道もある。欧州でも、南北アメリカ、アジア、中東、アフリカ、太平洋でも、ほとんどの国が先の大戦後も直接の戦争当事国となったり、海外派兵を行い、内戦が起こるなど、多くの戦死者を出してきた歴史がある。その中で、人口一億二千八百万人、ＧＤＰ四・八ﾄﾞﾙの大国である日本が七十年間も戦闘で一弾も発射せず、テロの犠牲以外には一人の戦死者を出していないのは奇跡に近い平和政策の成功と思わざるを得ない。

【天皇陛下の願い】

天皇陛下は平成二十七年、新年に当たっての「ご感想」で、次のように述べられた。

「本年は終戦から七十年という節目の年に当たります。多くの人々が亡くなった戦争でした。各戦場で亡くなった人々、広島、長崎の原爆、東

京を始めとする各都市の爆撃などにより亡くなった人々の数は誠に多いものでした。この機会に、満州事変に始まるこの戦争の歴史を十分に学び、今後の日本のあり方を考えていくことが、今、極めて大切なことだと思っています」と述べられました。また、昨年十二月十九日の「天皇誕生日」での宮内記者会代表質問において《先の戦争や平和に対するお考えをお聞かせ下さい》との質問に対して天皇陛下は、「先の戦争では三百万を超す多くの人が亡くなりました。その人々の死を無にすることがないよう、常により良い日本をつくる努力を続ける事が、残された私共に課せられた義務であり、後に来る時代への責任であると思います。そして、これからの日本のつつがない発展を求めていく時に、日本が世界の中で安定した平和で健全な国として、近隣諸国はもとより、できるだけ多くの世界の国々と共に支え合って歩んでいけるよう、切に願っています」と述べておられます。

【天皇陛下の権威】

天皇陛下は日本国の象徴と言われます。その象徴である天皇陛下の使命とは何なのでしょうか？ご存じの方にとっては、当たり前すぎて今さら説明するまでもない事なのですが、あまりにもご存じない方が多く、ましてや天皇陛下を蔑視されている方もおられる有り様。「天皇陛下は日頃何を為されているのか？」とか、「税金の無駄じゃないの？」など、信じられないような無礼な言葉を耳にする事があります。しかもそれは若者よりも年配の方に多い事が気になる。決して悪気はないと思う。そもそも学校教育や、各家庭で教わらないこと自体異常なのだと思う。これはＧＤＰの占領政策の弊害が表出した結果の一つと言えるでしょう。また天皇陛下の権威に関しては、むしろ諸外国の方がその事実の重みを認識している。そこで恐れ多いですが、簡略にご説明させて頂くことにする。

まず天皇陛下のご使命は、**「日本国の平和、国民の安泰をお祈りされること」**です。日本人の精神性の原点であり、最も象徴的なのが天皇陛下であられる。**『世界最古にして最後の皇帝』**…今上陛下が百二十五代。初代が神武天皇である。また、諸説あるにせよ、神武天皇を起源とすると、二千六百七十年以上も男系の子孫がずっと皇位を継承している。これほど長く一つの系譜で続いた王朝は世界のどこにもない。王朝の存続とは、男系（父親が皇族）による皇位の継承の事で、女系（母親だけが皇族の皇帝）では、その王朝は断絶する。ちなみに国王の場合でも同様だ。**『世界的権威の国際的な序列』**…**海外では陛下のことをエンペラー（皇帝）とお呼びするのです。キング（王）、プレジデント（大統領）、首相、より断然格上であるというのが世界の常識。**国賓として来日する各国の要人は、天皇陛下との公式行事には最高儀礼である服装で出席している。世界各国の最高要人の権威を判り易く順番に並べると次のようになる。**陛下→法王→王様→大統領→首相**の順番である。現在の世界情勢に合わせてみると、**天皇陛下→ローマ法王→英国女王→アメリカ大統領→日本国首相**となる。天皇**陛下**という権威は、世界で唯一にして最上無二の存在なのです。権威からいって当たり前ですが、エリザベス女王が天皇陛下と同席する際は常坐を譲り、アメリカ大統領も晩餐会では最高儀礼のホワイトタイで歓迎する。かつて昭和天皇の、ご訪米時には、空港、ホワイトハウスで史上例を見ない米五軍による観閲儀仗も行われた。

世界最高位の天皇陛下を冠する日本国に、私達日本人に、その自覚があるだろうか？

日本の現在の天皇家の王朝名を正確に表現すると大和王朝ということになり、国名は大和朝日本ということになる。私達は勇気とか根性を表すのに**「大和魂」**という言葉を使う。大和魂とは、大和朝日本に住む臣民の魂という意味になる。つまり、日本の象徴である天皇陛下を敬い、国や民を愛し、大和朝日本のために困難に立ち向かう魂の事であろう。我々日本人は、神話を起源に持つ大和朝日本の民であり、その誇りと気概を取り戻さなければならない大きな転換点を迎えているのだと思う。

合　掌　副住職　谷川寛敬